

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記の検査項目につきまして、検査内容を変更させていただくこととなりましたので謹んでご案内申し上げます。

ご利用の先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

■ 実施日 2021年 3月 31 (水) ご依頼分より

ー 変更項目一覧 ー

項目コード	検査項目	検査案内掲載ページ	項目コード	検査項目	検査案内掲載ページ	
3367	トリプシン	P1	4021	レニン定量(活性型)	P24	
0526	クレアチン	P3	1171	レニン活性(PRA)		
4258	心筋トロポニン T	P4	1230	アルドステロン/レニン定量比	未掲載	
3910	IV型コラーゲン・7S		3184	アルドステロン/レニン活性比		
0360	ALP アイソザイム (ALP-I)	P9	3168	TSH 刺激性レセプター抗体 (TSAb)	P28	
0350	LD(LDH)アイソザイム (LD(LDH)-I)		3622	抗セントロメア抗体		
3087	トロンボモジュリン(TM)	P12	0703	抗 IA-2 抗体	P29	
3928	I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx)[骨粗鬆症]		4086	抗 LKM-1 抗体		
4174	CA54/61		3954	ループス抗凝固因子 (ループスアンチコアグラント)		
3513	I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド 精密測定 (NTx)[腫瘍マーカー]	P16	3018	免疫電気泳動 [抗ヒト全血清による同定]	P38	
1272	尿中カテコールアミン(総)	P19	3949	ラモトリギン	P68	
1280	カテコールアミン 3 分画 (酸性蓄尿)		3510	トピラマート	P68	
3588	メタネフリン・ノルメタネフリン分画		0833	ベプリジル	P69	
3418	ホモバニリン酸 (HVA 定量)		(髄液)	3628	便中ヘリコバクターピロリ抗原	P76
3414			(血漿)	3090	ハイドロキシプロリン(総)	P79
3419			(酸性蓄尿)	4382	乳癌 HER2 遺伝子 (FISH)	P94
3408	バニルマンデル酸 (VMA 定量)		(髄液)	3131	脂肪酸分画 (24 成分)	未掲載
3416			(血漿)	3081	脂肪酸分画 (4 成分)	
3415			(酸性蓄尿)	4084	酸化 LDL (MDA-LDL)	
4092	5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)		(髄液)	3183	TSAb (TSH レセプター抗体 [阻害型])	
3420			(血漿)	3716	副甲状腺ホルモン (Whole PTH)	
3421			(酸性蓄尿)	0476	FLT3 変異解析 ITD/TKD	
1151	アルドステロン		(血清・血漿)	0628	HIV 抗原・抗体	
1161			(蓄尿)	3832	クラミドフィラ(クラミジア) シッタシ IgG	
		P20	3833	クラミドフィラ(クラミジア) シッタシ IgM		

■ 実施日 2021年 4月 1 (木) ご依頼分より

ー 変更項目一覧 ー

項目コード	検査項目	検査案内掲載ページ	項目コード	検査項目	検査案内掲載ページ
0445	総胆汁酸 (TBA)	P2	1201	コレチゾール	P20
3368	CK (CPK) -MB	P9	0876	トランスフェリン (Tf)	P37
0591	total P1NP (I 型プロコラーゲン-N-テロペプチド)	P12	0499	β-リポ蛋白	未掲載
3345	副甲状腺ホルモン intact (PTH-intact)	P18	0810	リウマチ因子 RF	

●変更一覧表

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	検査案内掲載ページ	備考
3367	トリプシン	検査方法	ラテックス凝集比濁法	ELISA	P1	
		基準値 (単位)	210~570 (ng/mL)	100~550 (ng/mL)		
		報告範囲	30 未満、 30~99900000	50 未満、 50~99900000		
0526	クレアチン ※1	基準値 (単位)	血清 0.17~1.00 (mg/dL)	血清 0.31~1.10 (mg/dL)	P3	
0360	ALP アイソザイム (ALP-I) ※2	項目名称	ALP アイソザイム (IFCC)	ALP アイソザイム	P9	
		基準値 (単位)	ALP1 0.0~5.3 ALP2 36.6~69.2 ALP3 25.2~54.2 ALP5 0.0~18.1 (%)	ALP2 36~74 ALP3 25~59 ALP5 0~16 (%)		
		報告範囲	0.0~100.0	0~100		
3087	トロンボモジュリン (TM)	検査方法	CLEIA	EIA	P12	測定試薬 変更に伴う 変更
		検体量 (mL)	血清 0.4	血清 0.3		
		単位	U/mL	FU/mL		
		基準値	血清 12.1~24.9	M 2.1~4.1 F 1.8~3.9		
		報告範囲	5.0 未満、 5.0~199、200 以上	1.0 以下、 1.1~31.9、32.0 以上		
3928	I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) [骨粗鬆症]	検査方法	CLEIA	ELISA	P12	
		報告範囲 (単位)	NTx 濃度： 部分尿 15 未満、 15~99999999 (nmolBCE/L) クレアチニン 換算値： 変更はありません	NTx 濃度： 部分尿 20 以下、 21~99999999 (nmolBCE/L) クレアチニン 換算値： (クレアチニン 濃度により異なる) ~999999.9 (nmolBCE/mmol・CRE)		
3513	I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド精密測定 (NTx) [腫瘍マーカー]	検査案内書備考欄	午前中の第二尿をご提出ください。 <u>血尿でのご提出は避けてください。</u>	早朝2番尿をご提出ください。	P16	
3622	抗セントロメア抗体 ※1	検査方法	CLEIA	ELISA	P28	
		基準値 (単位)	血清 10.0 未満 (U/mL)	血清 10.0 未満 (なし) 判定基準： 検査案内参照		
		報告範囲	2.0 未満、2.0~499、 500 以上	5.0 未満、5.0~299、 300 以上		

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	検査案内掲載ページ	備考
3954	ループス抗凝固因子 (ループスアンチコアゲラント) ※3	基準値	1.2 以下	1.3 未満	P29	測定試薬 変更に伴う 変更
		報告範囲	0.1～99.9 (中和前凝固時間) 16.0 未満、 16.0～239.9、 240.0 以上(秒) (中和後凝固時間) 6.0 未満、6.0～120.9、 121.0 以上(秒)	0.07 以下、 0.08～14.99、15.00 以上 (中和前凝固時間) 10.0 以下、10.1～149.9、 150.0 以上(秒) (中和後凝固時間) 10.0 以下、10.1～149.9、 150.0 以上(秒)		
		報告桁数	有効 3、整数 2、小数 1	有効 4、整数 2、小数 2		
3628	便中ヘリコバクテ ーピロリ抗原 ※4	検査方法	EIA	ELISA	P76	
		容器	K4	K3		
			※専用容器が変更となります。			
検査案内 備考欄	必ず専用容器で採取 してご提出ください。	—				
0350	LD(LDH)アイソザイム (LD(LDH)-I)	検査案内 備考欄	溶血でのご依頼は避けて ください。(溶血の場合 LDH1、2、3 の上昇が考え られます。) LDH5 が多く含まれる検体 では、IFCC 法に基づく 分画値と乖離する場合が あります。	溶血でのご依頼は避けてく ださい。	P9	日本臨床 化学会から の通達に準 じた検査案 内備考欄 の変更
3018	免疫電気泳動 [抗ヒ全血清による同定]	報告内容	(判定コメント) 日本語表記に統一	(判定コメント) 日本語表記と英語の 表記混在	P38	判定コメント 表記方法 見直しの為
3949	ラモトリギン	基準値 (治療濃 度範囲)	2.5～15(μg/mL)	(設定なし)	P68	TDM ガイ ド ラインに基 づいた基準 値、採血時 刻への変更
		採血時刻	次回投与直前 (Trough 濃度)			
3510	トピラマート	基準値 (治療濃 度範囲)	5～20 (μg/mL)	(設定なし)	P68	
		採血時刻	次回投与直前 (Trough 濃度)			
0833	ペプリジル	採血時刻	(削除)	投与後 3 時間 (Peak 値)	P69	
4382	乳癌 HER2 遺伝子 (FISH)	報告書	SRL汎用報告書	SRL専用報告書	P94	報告書の 統一化と併 せ、報告内 容の見直し に伴う変更
		報告内容	画像添付の廃止、シグナル 比、HER2 平均コピー数、 判定(増幅の有無) のみを報告 ※画像報告の有料化	報告書に画像添付、複数 の判定報告コメント		

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	検査案内掲載ページ	備考				
4258	心筋トロポニン T	保存	冷蔵	凍結	P4	保存方法 保存温度 見直しによる変更				
3368	CK(CPK)－MB				P9					
3345	副甲状腺ホルモン intact(PTH－intact)				P18					
1272	尿中カテコールアミン(総)				P19					
1280	カテコールアミン 3 分画 (酸性蓄尿)				P19					
3588	メタネフリン・ノルメタネフリン分画				P19					
3418	ホモバニリン酸 (HVA 定量)				髄液		P19			
3414					血漿		未掲載			
3419					酸性蓄尿		P19			
3408	バニルマンデル酸 (VMA 定量)				髄液		未掲載			
3416					血漿		P19			
3415					酸性蓄尿		P19			
4092	5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)				髄液		P19			
3420					血漿		未掲載			
3421					酸性蓄尿		P19			
3168	TSH 刺激性レセプター抗体 (TSAb)								P28	
3090	ハイドロキシプロリン(総)								P79	
3183	TSBAb(TSHレセプター抗体[阻害型])								未掲載	
3131	脂肪酸分画(24成分)								未掲載	
3081	脂肪酸分画(4成分)								未掲載	
3716	副甲状腺ホルモン (Whole PTH)								未掲載	
0476	FLT3 変異解析 ITD/TKD				保存 (安定性)		冷蔵(7日)	冷蔵(3日)	未掲載	
					検体の取り扱い事項		凍結保存は避けてください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。本検査は、EDTA-2Na 入り採血管(G)によるご提出も可能です。		—	未掲載

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	検査案内掲載ページ	備考
4174	CA54/61	所要日数	4~8	4~7	P15	アッセイスケジュール見直し等による所要日数の変更
0703	抗 IA-2 抗体	所要日数	4~10	4~7	P29	
4086	抗 LKM-1 抗体	所要日数	3~9	3~6	P29	
4084	酸化 LDL(MDA-LDL)	所要日数	4~15	4~6	未掲載	
3832	クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgG	所要日数	4~10	4~6	未掲載	
3833	クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgM	所要日数	4~10	4~6	未掲載	
3910	IV型コラーゲン・7S	検査名称	IV型コラーゲン・7S [CLEIA]	IV型コラーゲン・7S	P4	検査方法変更の為
		検査方法	CLEIA	RIA2 抗体法		
		所要日数	3~5	4~6		
		基準値	4.4 以下 (ng/mL)	6 以下 (ng/mL)		
1151	アルドステロン	検査方法	CLEIA	RIA 固相法	P20	
		基準値	4.0~82.1 (pg/mL)	随時 35.7~240 臥位 29.9~159 立位 38.9~307 (pg/mL)		
1161	アルドステロン(畜尿)	検査方法	CLEIA	RIA 固相法	P20	
		基準値	1.0~19.3 (μg/day)	10.0 以下 (μg/day)		
		容器	J	N		
		所要日数	7~9	5~9		
4021	レニン定量(活性型)	検査名称	レニン濃度(ARC) [CLEIA]	レニン定量(活性型)	P24	
		検査方法	CLEIA	RIA 固相法		
		所要日数	3~5	3~6		
		基準値	2.21~39.5 (pg/mL)	随時 3.2~36 臥位 2.5~21 立位 3.6~64 (pg/mL)		
1171	レニン活性(PRA)	検査名称	レニン活性(PRA) [EIA]	レニン活性(PRA)	P24	
		検査方法	EIA	RIA2 抗体法		
		検体量	0.7mL	0.3mL		
		基準値	臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1 (ng/mL/hr)	臥位 0.3~2.9 立位 0.3~5.4 (ng/mL/hr)		

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	検査案内掲載ページ	備考
1230	アルドステロン／レニン定量比	検査名称	アルドステロン／レニン濃度比	アルドステロン／レニン定量比	未掲載	検査方法変更の為
		所要日数	3～5	3～6		
		検査方法	CLEIA	RIA 固相法		
		基準値	20ページ目参照	20ページ目参照		
3184	アルドステロン／レニン活性比	検査方法	アルドステロン:CLEIA レニン活性:EIA	アルドステロン:RIA 固相法 レニン活性:RIA2 抗体法	未掲載	
		基準値	20ページ目参照	20ページ目参照		
		検体量	血漿 1.2mL	血漿 0.8 mL		
0445	総胆汁酸(TBA)	単位	μ mol/L	nmol/mL	P2	
0591	total P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	基準値 (単位)	M (30～83 歳) 18.1～74.1 F 閉経前(30～44 歳) 16.8～70.1 閉経後(45～79 歳) 26.4～98.2 (ng/mL)	M 18.1～74.1 F 閉経前 16.6～69.5 閉経後 26.6～97.5 (ng/mL)	P12	
1201	コルチゾール	基準値 (単位)	午前 6 時～10 時 7.07～19.6 (μ g/dL)	6.2～18.0 (μ g/dL)	P20	新薬添付文書の内容に変更
		報告下限	0.06 未満	0.1 未満		
		報告桁数	少数第二位	少数第一位		
0876	トランスフェリン(Tf)	基準値 (単位)	M 190～300 F 200～340 (mg/dL)	190～320 (mg/dL)	P37	
0499	β -リポ蛋白	基準値 (単位)	220～650(mg/dL)	150～500(mg/dL)	未掲載	
0810	リウマチ因子 RF	報告上限	500 以上	-	未掲載	
0628	HIV 抗原・抗体	所要日数	4～6	5～7	未掲載	項目集約に伴う変更と親展報告書の廃止
		報告書	NR総合報告書	SRL親展報告書		

※1 試薬販売中止に伴うへの試薬変更

※2 IFCC 測定法試薬への変更

※3 日本血栓止血学会の推奨法である Normalized Ratio を使用し、同学会の推奨基準値と同等の基準値を採用している測定試薬へ変更

※4 国内シェア率の高い試薬へ変更

以上

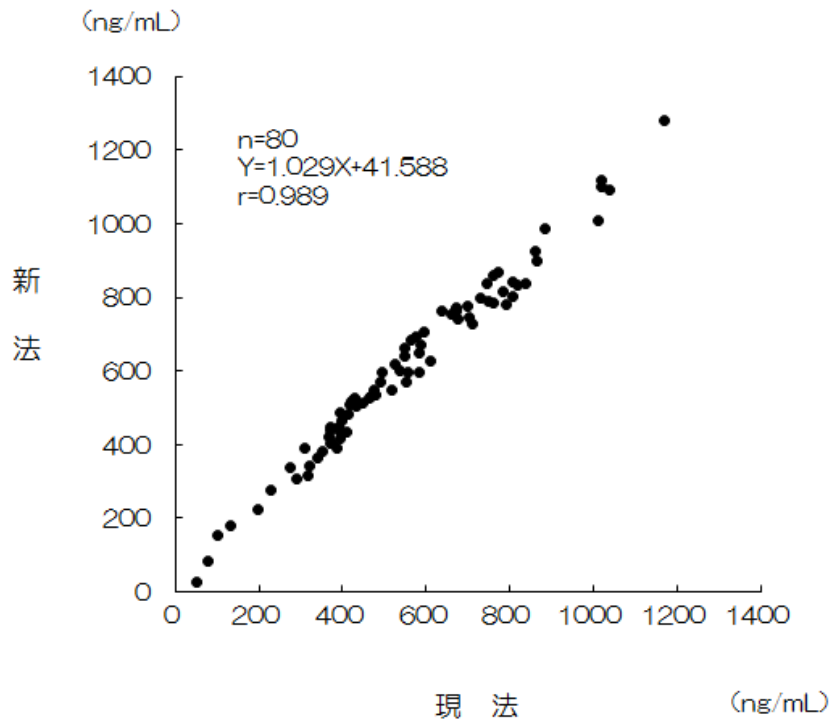
検査のご依頼に関するご不明な点やご要望等につきましては、弊社営業担当、または学術インフォメーションまでお問い合わせ下さい。TEL:075-631-6230

● トリプシン

全自動測定機器へ搭載可能な試薬へと変更させていただきます。
これに伴い、検査方法、基準値が変更、報告範囲が広がります。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
3367	トリプシン	検査方法	ラテックス凝集比濁法	ELISA
		基準値 (単位)	210~570 (ng/mL)	100~550 (ng/mL)
		報告範囲	30 未満、 30~99900000	50 未満、 50~99900000

▼ 現法と新法の比較



● 検査方法参考文献

植田 進之介, 他: 医学と薬学 77(12):1659~1668, 2020.

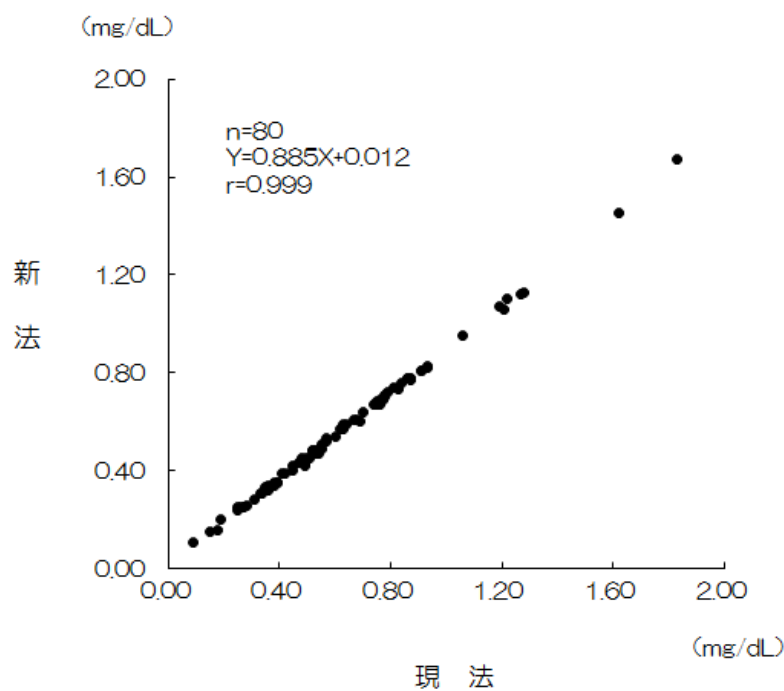
● クレアチン

測定試薬終売に伴い、代替試薬へ変更させていただきます。
これに伴い、基準値が変更となります。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
0526	クレアチン	基準値 (単位)	血清 0.17~1.00(mg/dL)	血清 0.31~1.10(mg/dL)

▼現法と新法の比較

クレアチン血清



●検査方法参考文献: 検索中

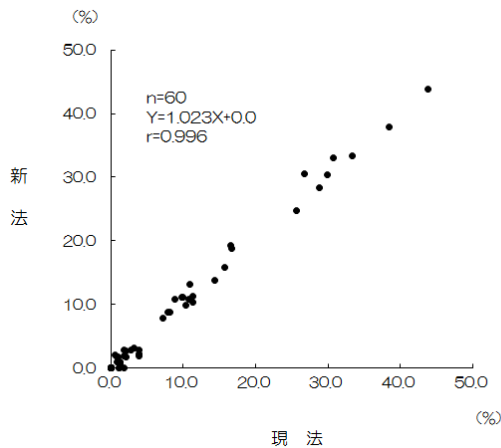
● ALP アイソザイム

日本臨床化学会より発表された常用標準法をIFCC法に変更する基本方針に基づき、IFCC法に準拠した測定試薬に変更させていただきます。
これに伴い、項目名称、基準値が変更となります。

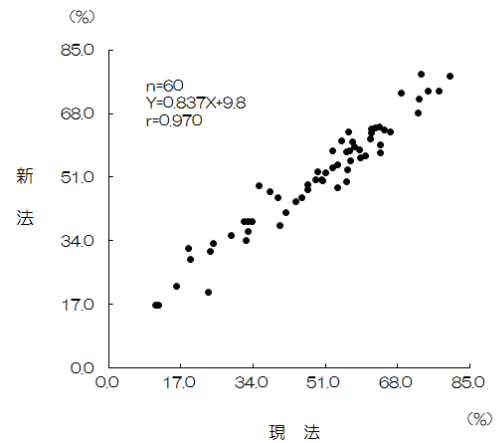
項目コード	検査項目	変更内容	新	現
0360	ALP アイソザイム	項目名称	ALP アイソザイム (IFCC)	ALP アイソザイム
		基準値 (単位)	ALP1 0.0~5.3 ALP2 36.6~69.2 ALP3 25.2~54.2 ALP5 0.0~18.1 (%)	ALP2 36~74 ALP3 25~59 ALP5 0~16 (%)
		報告範囲	0.0~100.0	0~100

▼現法と新法の比較

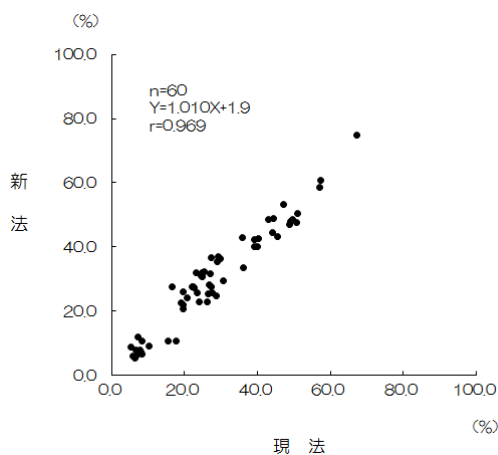
●ALP1



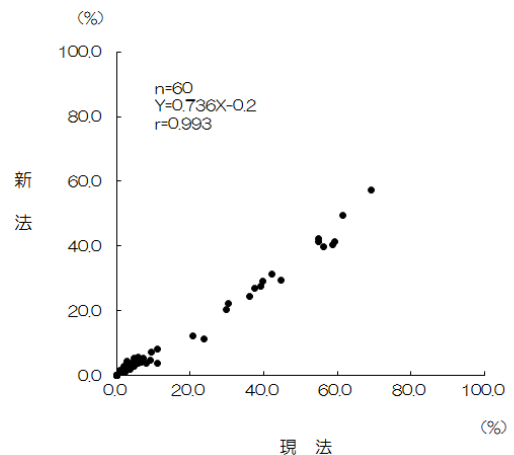
●ALP2



●ALP3



●ALP5



●検査方法参考文献

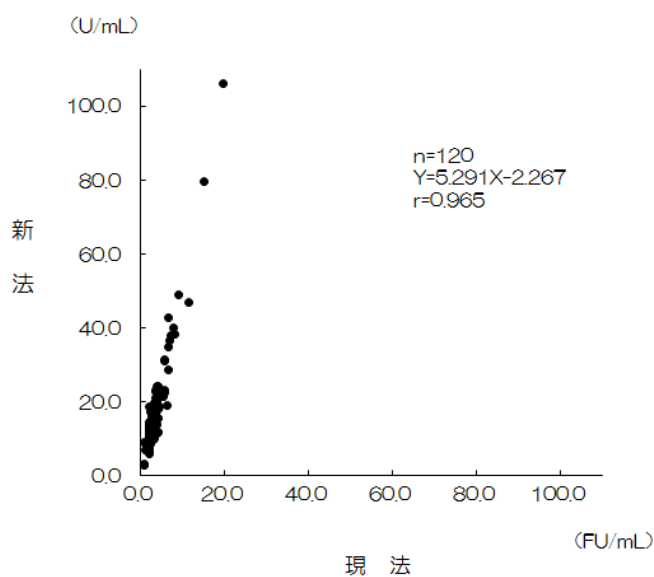
芝 紀代子: 目でみる電気泳動法2 (医歯薬出版): 55~71, 1989.

● トロンボモジュリン

全自動測定機器へ搭載可能な試薬へと変更させていただきます。
これに伴い、検査方法、検体量、単位、基準値、報告範囲、~~検体の取り扱い方法~~が変更となります。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
3087	トロンボモジュリン	検査方法	CLEIA	EIA
		材料	血清	血清
		検体量	0.4(mL)	0.3(mL)
		単位	U/mL	FU/mL
		基準値	血清 12.1~24.9	M 2.1~4.1、 F 1.8~3.9
		報告範囲	5.0未満、 5.0~199、200以上	1.0以下、 1.1~31.9、32.0以上

▼ 現法と新法の比較



● 検査方法参考文献

小野 真弓, 他: 日本臨床検査自動化学会会誌 38(1):114~117, 2013.

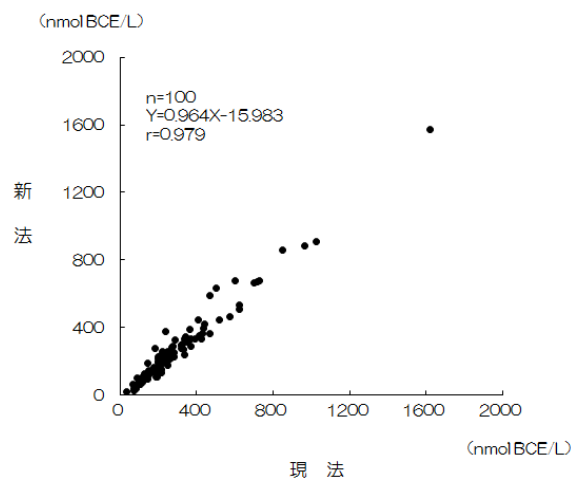
- I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) (骨粗鬆症)、
- I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド精密測定 (NTx) [腫瘍マーカー]

全自動測定機器へ搭載可能な試薬へと変更させていただきます。
これに伴い、検査方法、報告範囲、検査案内備考欄が変更となります。

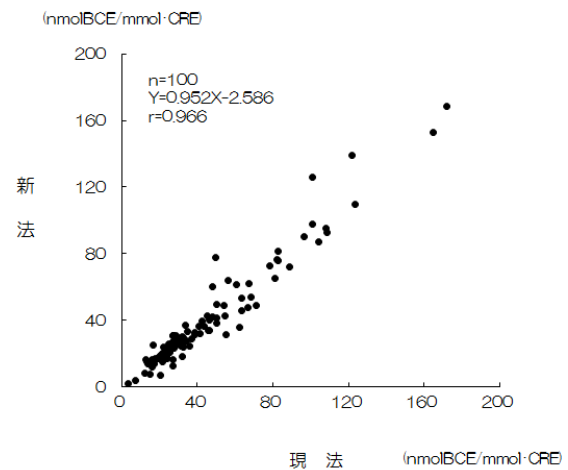
項目コード	検査項目	変更内容	新	現
3928	I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx) (骨粗鬆症)	検査方法	CLEIA	ELISA
		報告範囲 (単位)	NTx 濃度: 部分尿 15 未満、 15~99999999 (nmolBCE/L) クレアチニン 換算値: 変更はありません (nmolBCE/mmol・CRE)	NTx 濃度: 部分尿 20 以下、 21~99999999 (nmolBCE/L) クレアチニン 換算値: (クレアチニン濃度により異なる) ~999999.9 (nmolBCE/mmol・CRE)
3513	I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド精密測定 (NTx) [腫瘍マーカー]	検査案内備考欄	午前中の第二尿をご提出ください。 <u>血尿でのご提出は避けてください。</u>	午前中の第二尿をご提出ください。

▼現法と新法の比較

NTx濃度



クレアチニン換算値



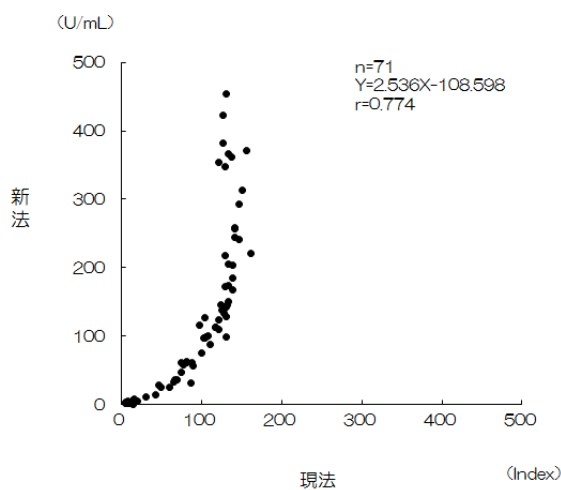
- 検査方法参考文献: 国内論文掲載予定

● 抗セントロメア抗体

測定試薬終売に伴い、代替試薬へ変更させていただきます。
これに伴い、検査方法、基準値、報告範囲が変更となります。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
3622	抗セントロメア抗体	検査方法	CLEIA	ELISA
		基準値 (単位)	10.0 未満 (U/mL)	10.0 未満 (なし) 判定基準: 検査案内参照
		報告範囲	2.0 未満、2.0~499、 500 以上	5.0 未満、5.0~299、 300 以上

▼ 現法と新法の比較



● 相関一致表

		現法	
		陰性	陽性
新法	陰性	58	2
	陽性	0	91

判定一致率: 98.7% n=151

● 検査方法参考文献

小島 和夫, 他: 医学と薬学 69(3):677~687, 2013.

● ループスアンチコアグラント(希釈ラッセル蛇毒時間法)

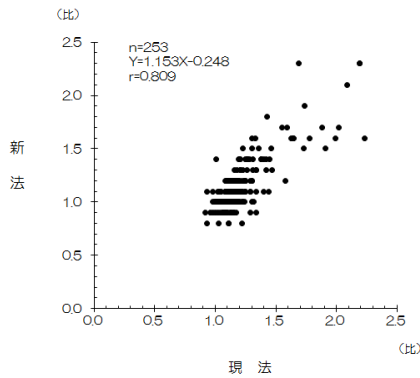
日本血栓止血学会の推奨法である Normalized Ratio を使用し、同学会の推奨基準値と同等の基準値を採用している測定試薬へ変更いたします。
これに伴い、基準値、報告範囲、報告桁数が変更となります。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
3954	ループスアンチコアグラント (希釈ラッセル蛇毒時間法)	基準値	1.2 以下	1.3 未満
		報告範囲	0.1~99.9 (中和前凝固時間) 16.0 未満、16.0~239.9、240.0 以上(秒) (中和後凝固時間) 6.0 未満、6.0~120.9、 121.0 以上(秒)	0.07 以下、0.08~14.99、 15.00 以上 (中和前凝固時間) 10.0 以下、10.1~149.9、 150.0 以上(秒) (中和後凝固時間) 10.0 以下、10.1~149.9、 150.0 以上(秒)
		報告桁数 (※)	有効 3、整数 2、小数 1	有効 4、整数 2、小数 2

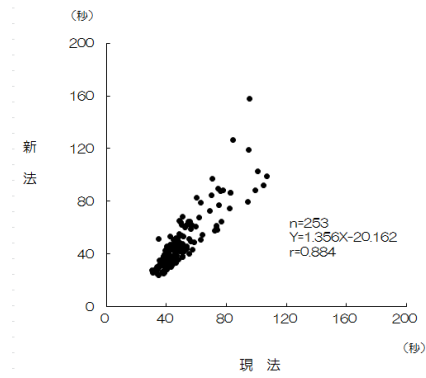
(※): 比について、基準値表記と統一させていただきます。

▼現法と新法の比較

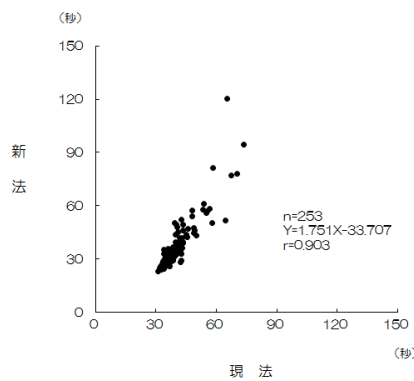
(比)



(中和前凝固時間)



(中和後凝固時間)



● 相関一致表

		現法	
		陰性(-)	陽性(+)
新法	陰性(-)	194	9
	陽性(+)	16	34

判定一致率: 90.1% n=253

● 検査方法参考文献

藤岡 貴: 医学と薬学 73(5):621~626, 2016.

● 便中ヘリコバクターピロリ抗原

国内シェア率の高い試薬へと変更させていただきます。
これに伴い、検査方法、容器、案内書備考欄が変更となります。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
3628	便中ヘリコバクター ピロリ抗原	検査方法	EIA	ELISA
		容器	K4(※)	K3
		案内書 備考欄	必ず専用容器で採取して ご提出ください。	

(※): 容器記号を新設させていただきます。

▼ 現法と新法の比較 相関一致表

		ELISA (現法)		
		陰性	判定保留	陽性
EIA (新法)	陰性	16	0	0
	陽性	0	2	22

一致率(判定保留を除く) : 100% n=40

▼ 容器

K4	便中ヘリコバクターピロリ 抗原専用容器
【主な検査項目】 便中ヘリコバクター ピロリ抗原 【保存方法】 室温 【有効期間】 製造後18ヶ月	

● 検査方法参考文献

朝日 佳代子, 他: 医学と薬学 57(2): 253~260, 2007.

● ラモトリギン、トピラマート、ベプリジル

.....

TDM ガイドラインに準じた基準値(治療濃度範囲)、採血時刻に変更させていただきます。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
3949	ラモトリギン	基準値 (治療濃度範囲)	2.5~15($\mu\text{g}/\text{mL}$)	(設定なし)
		採血時刻	次回投与直前 (Trough 濃度)	(設定なし)
3510	トピラマート	基準値 (治療濃度範囲)	5~20($\mu\text{g}/\text{mL}$)	(設定なし)
		採血時刻	次回投与直前 (Trough 濃度)	(設定なし)
0833	ベプリジル	採血時刻	(削除)	投与後 3 時間(Peak 値)

● 乳癌 HER2 遺伝子 (FISH)

報告書の統一化と併せ、報告内容の見直しに伴う、報告書、報告内容の変更
※画像報告の有料化

<新報告書見本>

検査項目	結果	単位	コメント	備考
HER2/neuアンプ (染色法)	99	BD		
スコア判定	(1+) 増強あり			
判定	A			
病理専門医によるレビュー	実施済み			
HER2遺伝子 (FISH)	99	BD		
シグナル比	1.0			
判定	A			
HER2遺伝子コピー数	3.0			
病理専門医によるレビュー	実施済み			

<現報告書見本>

シグナル比	判定結果 (詳細は判定基準参照)
シグナル比	1.0
HER2遺伝子	増強なし

【コメント】
乳がんの遺伝子検査結果報告書作成の経緯検査ガイド 乳癌編 実施日の判定基準に従うと、HER2遺伝子コピー数の平均値は1.7で陽性です。

シグナル比の分布

本検査の登録標準値は 0.95 であり、判定基準は 1.0 以上です。

シグナル比	判定結果
1.0以上	増強あり
1.0未満	増強なし

● HIV 抗原・抗体

所要日数、報告書を変更させていただきます。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
0628	HIV 抗原・抗体	所要日数	4~6	5~7
		報告書	NR総合報告書	SRL親展報告書

<現報告書見本>

検査項目	結果	単位	標準値
HIV Ag-Ab	陽性		陰性

裏面をめくると「検査の進め方」等の情報が記載されております

※SRL親展報告書は廃止となります

別紙

● アルドステロン

アルドステロンは、副腎皮質球状層で産生・分泌される最も強力な鉱質コルチコイドであり、電解質の恒常性・循環血液量・血圧の維持に重要な役割を果たしています。アルドステロンの分泌は、レニン-アンジオテンシン系、ACTH、血中カリウム濃度によって調整されています。

本検査項目は、日本内分泌学会の方針に基づいた、標準化対応試薬を採用しています。原発性アルドステロン症をはじめとした高血圧疾患、腎疾患、浮腫性疾患などの診断と鑑別に有用です。

● 留意事項

- ・採血時間は午前が推奨されています。
- ・採血は座位で15分間安静後をお勧めいたします。

● 参考文献

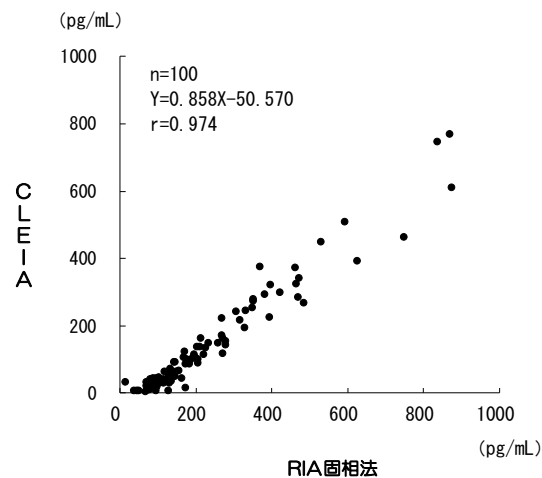
佐藤 文俊, 他: 医学と薬学 76(12):1819~1826, 2019. (検査方法参考文献)

猿田 享男: 日本臨床 63(増):328~331, 2005. (臨床的意義参考文献)

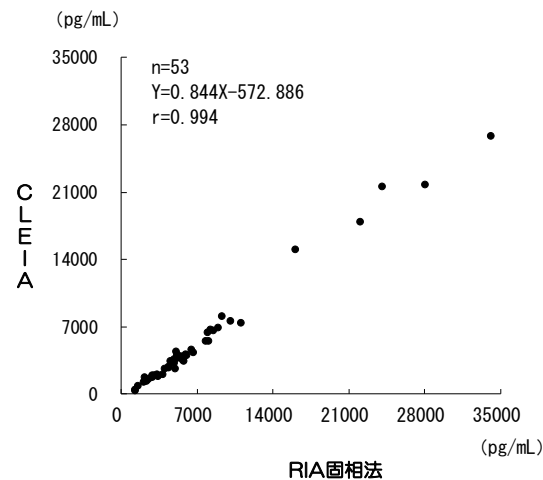
猿田 享男: ホルモンと臨床 43(増):65~72, 1995. (臨床的意義参考文献)

● 相関

血漿・血清



尿



● レニン濃度(ARC)・レニン活性(PRA)

レニンは腎臓の傍糸球体細胞で産生されるプロテアーゼであり、血中では活性型または不活性型(プロレニン)として存在します。活性型レニンはアンジオテンジノーゲンをアンジオテンシン I に変換し、レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系を介して電解質の恒常性、循環血液量、血圧の維持に重要な役割を果たしています。

活性型レニン濃度の測定は、原発性アルドステロン症や腎血管性高血圧症などの二次性高血圧の診断と鑑別に有用です。

▼レニン濃度(ARC)[CLEIA]

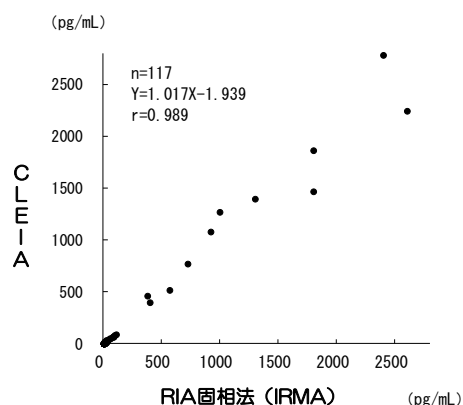
●留意事項

- ・採血時間は午前が推奨されています。
- ・採血は座位で15分間安静後をお勧めいたします。
- ・冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。

●参考文献

- 佐藤 文俊, 他:医学と薬学 76(12):1827~1832, 2019. (検査方法参考文献)
 沖 隆, 他:ホルモンと臨床 42:1091~1094, 1994. (臨床的意義参考文献)

●相関

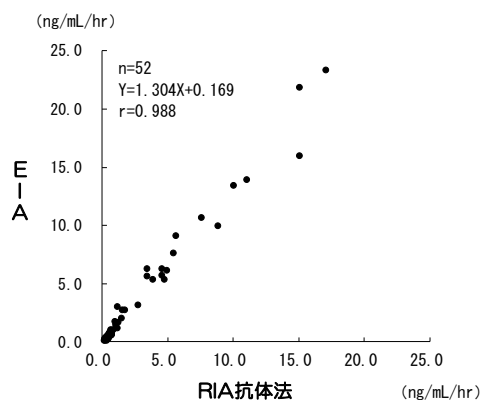


▼レニン活性(PRA)[EIA]

●参考文献

- 宇津 貴央, 他:医学と薬学 73(3):311~321, 2016. (検査方法参考文献)
 Kunihide Hiramatsu, et al:Arch intern Med-Vol141:1589~1593, 1981. (臨床的意義参考文献)

●相関



● アルドステロン/レニン濃度比・活性比

二次性高血圧の主な原因とされる原発性アルドステロン症(primary aldosteronism:PA)は、高血圧において約5%を占めることが報告されています。

日本内分泌学会「原発性アルドステロン症(PA)診断の手引き」ではPAのスクリーニング検査として血漿活性型レニン濃度(ARC)または血漿レニン活性(PRA)と血漿アルドステロン濃度(PAC)との比が指標とされています。

▼アルドステロン/レニン濃度比

●留意事項

- ・採血時間は午前が推奨されています。
- ・採血は座位で15分間安静後をお勧めいたします。
- ・冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。

●基準値

	新規受託開始項目	現実施項目
アルドステロン 〔CLEIA〕 (pg/mL)	4.0~82.1	随時 35.7~240 臥位 29.9~159 立位 38.9~307
レニン濃度(ARC) 〔CLEIA〕 (pg/mL)	2.21~39.5	随時 3.2~36 臥位 2.5~21 立位 3.6~64
アルドステロン/ レニン濃度比	40 以下	40 以下

●参考文献

日本高血圧学会:高血圧治療ガイドライン2019:185~190,2019。(臨床的意義参考文献)

▼アルドステロン/レニン活性比

●留意事項

- ・採血時間は午前が推奨されています。
- ・採血は座位で15分間安静後をお勧めいたします。

●基準値

	新規受託開始項目	現実施項目
アルドステロン 〔CLEIA〕 (pg/mL)	4.0~82.1	随時 35.7~240 臥位 29.9~159 立位 38.9~307
レニン活性(PRA) 〔EIA〕 (ng/mL/hr)	臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1	臥位 0.3~2.9 立位 0.3~5.4
アルドステロン/ レニン活性比	200 以下	200 以下

●参考文献

日本高血圧学会:高血圧治療ガイドライン2019:185~190,2019。(臨床的意義参考文献)